

3 中学校 国語

設問別調査結果 【中学校国語A：主として知識】

集計結果

	全国との比較
札幌市	ほぼ同程度

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	全国との比較	
			全国(公立)	札幌市
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	8	90.1	ほぼ同程度
	書くこと	4	73.4	ほぼ同程度
	読むこと	7	80.6	ほぼ同程度
	言語事項	18	80.3	ほぼ同程度
問題形式	選択式	20	84.2	ほぼ同程度
	短答式	16	79.3	ほぼ同程度
	記述式	1	72.4	ほぼ同程度

下表の札幌市全国との比較における記号は以下の基準により表記した。
 ○・・・+3.1ポイント以上
 ◇・・・+0.1ポイント～3.0ポイント
 -・・・ほぼ同程度
 ◆・・・-0.1ポイント～-3.0ポイント
 ●・・・-3.1ポイント以下

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				問題形式			全国(公立)		札幌市		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	全国との比較	無解答率(%)	
1-1	「満天の星」を聞き手に分かりやすい表現に直す	聞き手を意識して使用する語句を工夫する	○					○			86.6	4.6	◆	4.3
1-2	スピーチの内容にふさわしい題名をつける	話し手の意図を理解し、内容にふさわしい題名を付ける	○					○			87.7	0.3	◇	0.4
2-1	手紙の結語「敬具」に対応する頭語を選択する	手紙の頭語について理解している		○				○			85.4	0.3	◆	0.3
2-2	手紙の主文の書き出しの語を選択する	手紙の主文の書き出しの語について理解している		○				○			80.6	0.2	◆	0.2
2-3	手紙の後付けの適切な書き方を選択する	手紙の後付けについて理解している		○				○			55.0	0.4	◆	0.3
3-1	小説の中の表現についての適切な説明を選択する	文脈における自然描写を的確に読み取る			○			○			70.0	0.3	◇	0.3
3-2	小説に描かれた場面と表現についての適切な説明を選択する	比喩等の表現技法に注意して内容をとらえる			○			○			71.6	0.4	◇	0.4
4-1	詩(歌詞)のリズムについての適切な説明を選択する	表現の仕方や詩の特徴に注意して音読し、詩の韻律(リズム)について理解する			○			○			75.7	0.6	○	0.5
4-2①	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(かをる)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む			○			○			91.8	2.8	◇	2.1
4-2②	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(ふるふ)				○			○			76.4	4.2	○	3.0
4-3	歴史的仮名遣いで書かれた表現を読み取り、様子についての適切な説明を選択する	語句の意味に注意して内容を読み取る			○			○			90.6	0.5	◇	0.4
5-1	電話の内容をメモする(行事の内容)		○					○			95.4	1.5	◇	1.4
5-2	電話の内容をメモする(場所)	伝える必要のある内容を簡潔なメモにまとめる	○					○			98.0	1.3	-	1.2
5-3	電話の内容をメモする(連絡先)		○					○			90.4	1.4	◇	1.2
5-2	電話の相手の話に不足している情報について質問する	不足している情報に気付き、適切な表現で話し手に確かめる						○			90.1	5.3	◆	5.2
6-1	インタビューの目的にあった質問内容を考え、質問しなくてもよいものを選択する	目的に沿った質問をする	○					○			92.1	0.5	◇	0.4
6-2	インタビューの一部を読み、改善点として適切なものを選択する	効果的なインタビューの仕方について理解している	○					○			80.5	0.6	◇	0.5
7-1	グラフから読み取れる内容について提示された文章に合うように書く	グラフから情報を読み取り、文章の結論につながるように書く		○					○		72.4	10.0	◆	9.9

8-1	漢字を書く(会社のリエキを上げる)					○	○			68.2	12.8	◇	10.8
8-2	漢字を書く(おもしろみがハンゲンした)	文脈に即して漢字を正しく書く				○	○			66.3	15.0	○	12.6
8-3	漢字を書く(友達に本を力ず)					○	○			58.1	7.3	◆	7.8
8-21	漢字を読む(道路を拡張する)					○	○			83.0	4.9	◇	4.1
8-22	漢字を読む(草木が繁茂している)	文脈に即して漢字を正しく読む				○	○			30.3	28.3	◆	32.2
8-23	漢字を読む(入会を勧める)					○	○			66.2	3.7	○	3.1
8-3ア	適切な同訓異字を選択する(税金を納める)					○	○			87.5	0.6	◇	0.5
8-3イ	適切な慣用句を選択する(努力が水の泡となってしまった)					○	○			97.7	0.6	◇	0.4
8-3ウ	適切な四字熟語を選択する(単刀直入にものを言う)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う				○	○			89.4	0.9	◇	0.8
8-3エ	適切な語句を選択する(「絶対安静にしない。」)					○	○			96.1	0.6	◇	0.5
8-3オ	適切な語句を選択する(放送は、B劇場から中継した)					○	○			86.8	0.8	◇	0.7
8-3カ	適切な語句を選択する(のどのかわきをいやした)					○	○			91.6	0.9	◆	0.7
8-4	行書で書かれた漢字を楷書で書いたときの総画数を選択する	行書の書き方を理解している				○	○			78.3	0.7	◆	0.5
8-5	文字を読みやすくするための改善点を選択する	文字の大きさや配列・配置を考えて書く				○	○			83.5	1.0	◆	0.8
8-6	「枕草子」の冒頭を書く	代表的な古典に親しんでいる				○		○		88.0	5.7	○	3.6
8-7ア	文を推敲する(主語・述語の対応)	文の成分の照応に注意して書く				○	○			91.7	4.3	◇	3.6
8-7イ	文を推敲する(副詞の呼応)					○	○			88.1	4.8	◇	3.9
8-8ア	適切な敬語を選択する(尊敬語)	生活の場面で敬語を適切に使う				○	○			93.8	1.0	◆	0.7
8-8イ	適切な敬語を選択する(謙譲語)					○	○			89.4	1.0	—	0.8

【設問分析】

1 スピーチをする

①は、スピーチや発表などの音声による言語活動に必要な力をみる設問である。設問一では、聞き手を意識して使用する語句を工夫することができるかどうかについて、設問二では、話し手の意図を理解し、内容にふさわしい題名を付けることができるかどうかについて、それぞれ1問ずつで構成されている。

【設問一】聞き手を意識して使用する語句を工夫すること

- ・「満天」を聞き手に分かりやすい表現に直す設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問二】話し手の意図を理解し、内容にふさわしい題名を付けること

- ・スピーチの内容にふさわしい題名を付ける設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「話すこと・聞くこと」領域における、「スピーチすること」については、全国の平均正答率とほぼ同程度である。今後も、適切に話す力を身に付けさせるためには、スピーチなどの具体的な場面を設定して、話し言葉と書き言葉の違いに気付かせたり、聞き手を意識して話をさせたりするとともに、話し手・聞き手双方の立場になって、使用する言葉が適切であるかどうかを考えさせる指導を充実していくことが重要である。

また、話を聞く際には、話の内容の中心をつかむことが重要であることから、話し手の意図を考えながら要点をまとめたり、話の内容を一言で表現したりするなどの指導を充実していくことが必要である。

2 「手紙を書く」

②は、手紙を書くために必要な知識が定着しているかどうかをみるための設問である。設問一では、手紙の頭語を理解しているかどうか、設問二では手紙の主文の書き出しの語を理解しているかどうか、設問三では手紙の後付けを理解しているかどうか、それぞれ選択形式で問われている。

【設問一】手紙の頭語について理解していること

・結語「敬具」に対応する頭語を選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問二】手紙の主文の書き出しの語について理解していること

・主文の書き出しに用いる接続の言葉を選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問三】手紙の後付けについて理解していること

・後付けの適切な書き方を選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「書くこと」領域における、「手紙を書くこと」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。特に、全国的に正答率が低い設問もみられることから、手紙に特有な「拝啓」や「前略」といった頭語の代表的なものを受け取る結語については、確実に指導することが必要である。手紙の指導に当たっては、基本的な書式の指導はもとより、相手の名は上に書き、自分の名は下に書いて相手に敬意を表すといった、形式がもつ「意味」や「考え方」も併せて理解させることが大切である。また、相手や目的に応じた書き方があることを併せて指導したり、書写や敬語の指導と関連付けて指導したりすることが重要である。さらに、転換の意味をもつ接続詞「さて」は、手紙や公的なあいさつのように限られた場面ではしか使用されない言葉となりつつあることから、手紙文の指導の際などに意図的に取り上げて指導する必要がある。

3 「文学的な文章を読む」

③は、文学的な文章を読むために必要な力、すなわち、文脈における語句の意味や自然描写を的確にとらえたり、表現技法を理解したりする力をみる設問である。設問一では文脈における自然描写を的確に読み取ることができるかどうか、設問二では比喩等の表現技法に注意して内容をとらえることができるかどうか、それぞれ選択形式で問われている。

【設問一】文脈における自然描写を的確に読み取ること

・小説の中の表現についての適切な説明を選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】比喩等の表現技法に注意して内容をとらえること

・小説に描かれた場面と表現についての適切な説明を選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「読むこと」領域における、「小説の中の表現を適切に読み取ったり、表現技法に注意して内容をとらえたりすること」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。今後も、情景描写の多い文学作品を意図的に取り上げ、文章中の描写から情景を想像したり、自分なりにその情景を再構成したりする指導が必要である。また、書き手の工夫や表現の効果を考えながら、優れた描写を読み味わわせる指導等を充実していくことが重要である。

4 「文語文を読む」

④は、文語で書かれた「鯉のぼり」の歌詞を適切に音読したり、大体の意味を理解したりすることができるかどうかをみる設問である。設問一では表現の仕方や詩の特徴に注意して音読し、詩の韻律（リズム）について理解することができるかどうか、設問二では歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうか、設問三では語句の意味に注意して内容を読み取ることができるかどうか問われている。設問一・三は選択形式、設問二は記述式の設問となっている。

【設問一】表現の仕方や詩の特徴に注意して音読し、詩の韻律（リズム）について理解すること

・詩（歌詞）のリズムについての適切な説明を選択する設問では、全国の平均正答率を上回っている。

【設問二】歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと

①歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（かをる）設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上

回っている。

②歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（ふるふ）設問では、全国の平均正答率を上回っている。

【設問三】語句の意味に注意して内容を読み取ること

・歴史的仮名遣いで書かれた表現を読み取り、様子についての適切な説明を選択する説明では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「読むこと」領域における、「文語文を読むこと」については、全国の平均正答率と比較して、上回っているか、やや上回っている。今後も、歴史的仮名遣いについては、「を」と「お」といった発音上変化のないもの以外、例えば語頭以外の「はひふへほ」は「わいうえお」と読むといった発音上変化のあるものについて規則性をしっかり定着させるなど、指導を充実していくことが重要である。

5 電話の内容をメモする

⑤は、電話で伝言を頼まれた場面において、話の内容を的確に聞き取ることができるかどうかをみるための設問である。設問一では伝える必要のある内容を簡潔なメモにまとめることについて、設問二では不足している情報に気づき、適切な表現で話し手に確かめることについて、それぞれ設問一は3問、設問二は1問で構成されている。

【設問一】伝える必要のある内容を簡潔なメモにまとめること

(1) 電話の内容をメモする（行事の内容）設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

(2) 電話の内容をメモする（場所）設問では、全国の平均正答率とほぼ同程度である。

(3) 電話の内容をメモする（連絡先）設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】不足している情報に気づき、適切な表現で話し手に確かめること

・電話の相手の話に不足している情報について質問する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「話すこと・聞くこと」領域における、「伝える必要のある内容を簡潔なメモにまとめること」については、全国の平均正答率と比較して、ほぼ同程度か、やや上回っている。今後も、電話などでメモをとる場合には、メモを渡す相手のためにはどのような配慮をすべきか考える機会を設けて、実際にメモを取る活動を行うなど、指導を充実していくことが大切である。

さらに、メモのように伝言を書く際に、5W1H（いつ・どこで・だれが・何を・なぜ・どのように）などの基礎的・基本的な内容をおさえるとともに、伝える相手の立場に立って書くよう指導を充実していくことが重要である。

6 インタビューをする

⑥は、職業調べの一環としてインタビューを行う場面を設定し、目的に沿ったインタビューができるかどうかをみるための設問である。設問一では目的に沿った質問をすることについて、設問二では効果的なインタビューの仕方について理解していることについて、それぞれ1問ずつで構成されている。

【設問一】目的に沿った質問をすること

・インタビューの目的にあった質問内容を考え、質問しなくてもよいものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】効果的なインタビューの仕方について理解していること

・インタビューの一部を読み、改善点として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「話すこと・聞くこと」領域における、「インタビューをすること」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

インタビューをする際には、目的を明確にして質問内容を考えることが基本である。今後、更に効果的なインタビューにするために、質問項目を吟味し、絞り込んでいくような指導も大切である。

また、効果的なインタビューによって伝え合う力を育成するためには、事前に用意した項目だけを質問するのではなく、相手の話を聞いて疑問に思ったり興味をもったりしたことなどを追加して質問するなど、話の内容が深まるような工夫を行っていくよう指導を工夫していくことが重要である。

7は、グラフから読み取ったことをまとめ、文脈に沿って書く力をみるための設問である。グラフから情報を読み取り、文章の結論につながるように書くことができるかどうかについて、記述形式で答えるよう問われている。

・この設問では、全国の平均正答率と比較すると、やや下回っており、無解答率が高い状況である。

「書くこと」領域における、「グラフから読み取った情報を、文章の結論に生かして書くこと」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている状況である。

意見文を書く指導においては、事実と意見を区別して書くとともに、統計資料などのデータを読み取り、それを根拠として引用しながら、自分の考えを書かせる指導が必要である。また、日常的に、記述形式に慣れさせるよう指導を工夫していく必要である。

8 言語事項等

8は、言語や言語文化に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、文や文章の中で適切に用いることができるかどうかをみる設問である。漢字の読み書き、語彙、画数、文字の配置、敬語について八つの設問で構成されている。

【設問一】文脈に即して漢字を正しく書くこと

- (1) 「利益」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- (2) 「半減」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率を上回っている。
- (3) 「貸す」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問二】文脈に即して漢字を正しく読むこと

- (1) 「拡張」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- (2) 「繁茂」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。
- (3) 「勧める」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率を上回っている。

【設問三】語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと

- (1) 適切な同訓異字「納める」を選択する問題では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- (2) 適切な慣用句「水の泡」を選択する問題では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- (3) 適切な四字熟語「単刀直入」を選択する問題では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- (4) 適切な語句「安静」を選択する問題では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- (5) 適切な語句「中継」を選択する問題では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- (6) 適切な語句「いやした」を選択する問題では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問四】行書の書き方を理解していること

・行書で書かれた漢字を楷書で書いた時の総画数を選択する問題では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問五】文字の大きさや配列・配置を考えて書くこと

・文字を読みやすくするための改善点を選択する問題では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問六】代表的な古典に親しんでいること

・「枕草子」の冒頭を書く問題では、全国の平均正答率を上回っている。

【設問七】文の成分の照応に注意して書くこと

- (1) 主語・述語の対応に注意して文を推敲する問題では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- (2) 副詞の呼応に注意して文を推敲する問題では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問八】生活の場面で敬語を適切に使うこと

- (1) 適切な尊敬語を選択する問題では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。
- (2) 適切な謙譲語を選択する問題では、全国の平均正答率とほぼ同程度である。

「言語事項」における、「漢字の読み書き」については、全国の平均正答率と比較して、同程度か、やや上回っているが、全国の平均正答率は低い状況にある。今後も、漢字の指導においては、使用頻度の低いものを意図的に取り上げたり、同じ漢字を用いた他の語句と関連付けたりしながら、確実な定着を図るための指導を工夫することが必要である。

「語句の意味を理解し適切に使うこと」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。語句の指導においては、慣用句や故事成語などを日ごろの会話や記述でも意識して使い、難しい言葉を使うことへの抵抗をなくすよう、普段から様々な語句や表現に慣れ親しませるようにすることが大切である。

「行書の書き方」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。行書の指導においては、行書の特徴を正しく理解させ、場面に応じて普段から意識的に行書を用いて書かせることが必要である。

「文字の大きさや配列・配置」については、全国の平均正答率と比較してやや下回っている。文字の配置の指導においては、様々な人が見る掲示物を書くときなどで、「読みやすく書く」ということを、より意識させる必要がある。文字を書く目的や場面に応じて、適切な文字の大きさや配置・配列などを考えながら書く指導を重点的に行う必要がある。

「古典に親しむこと」については、全国の平均正答率を上回っている。古典においては、今後とも、本文を繰り返し音読させたり、代表的な古典の著名な部分に触れさせたりして古典に親しませることが大切である。

「文の成分の照応に注意して書くこと」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。今後とも、言葉のきまりに関する指導の場面だけではなく、書くことの指導における推敲の学習とも関連させて丁寧に指導することが大切である。

「敬語」については、全国の平均正答率と比較して、同程度か、やや下回っている。敬語においては、相手や場面に応じて、正しく尊敬語と謙譲語を区別して使えるように指導を充実していく必要がある。

設問別調査結果 【中学校国語B：主として活用】

集計結果

札幌市	全国との比較
	ほぼ同程度

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	全国との比較	
			全国(公立)	札幌市
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	1	81.3	ほぼ同程度
	書くこと	3	64.4	ほぼ同程度
	読むこと	9	70.6	ほぼ同程度
	言語事項	1	68.5	ほぼ同程度
問題形式	選択式	5	79.3	ほぼ同程度
	短答式	2	63.5	上回る
	記述式	3	64.4	ほぼ同程度

下表の札幌市全国との比較における記号は以下の基準により表記した。
 ○・・・+3.1ポイント以上
 ◇・・・+0.1ポイント～3.0ポイント
 ー・・・ほぼ同程度
 ◆・・・-0.1ポイント～-3.0ポイント
 ●・・・-3.1ポイント以下

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域			問題形式			全国(公立)		札幌市		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	全国との比較	無解答率(%)
1ー	話題を具体化するために資料を用いる箇所を選択する	話すことの内容に応じて、適切な資料を提示する	○				○			81.3	0.4	◇	0.4
1二	ロボットを開発した人の考えに合う内容を表から選択する	必要な情報を収集し、表現に生かす			○		○			92.5	0.4	◇	0.4
1三	ロボットと共存する未来社会について想像し、自分の考えを書く	情報を基に、根拠を明らかにしながら、自分の考えが適切に相手に伝わるように書く		○	○			○		75.9	9.6	◇	9.7
2ー	「 ^{くも} 蜘蛛の糸」を読み、その内容や表現についての適切な説明を選択する	作品の内容や表現上の特徴をとらえる			○		○			81.3	0.6	◆	0.6
2ニアイ	「 ^{くも} 蜘蛛の糸」の一部分を朗読する場合の適切な工夫を選択する	作品の展開や心情の変化に着目して朗読する			○	○	○			68.5	0.6	◇	0.5
2三	「三」の場面の有無に関して、自分の考えを80字以上120字以内で書く	作品の内容や構成、表現上の特色を踏まえ、自分の考えを書く		○	○			○		74.8	10.1	◆	11.7
3ー	広告カードについての会話文とカードの内容から、書いた人を特定する	表現の仕方の特徴をとらえる			○		○			73.1	0.8	◇	0.6
3二(1)	中学生が作成した広告カードに共通して書かれている情報を二つ書く	広告カードを比較して、共通して書かれている情報を読み取る			○		○			73.2	6.8	○	5.6
3二(2)					○		○			53.9	10.0	○	8.2
3三	中学生の広告カードと、店員が作成した広告カードを比較し、違いを説明する	資料に表れているものの方や考え方をとらえ、伝えたい事柄や考えを明確にして書く	○	○				○		42.6	12.4	◇	11.7

【設問別分析】

1 調べたことを発表する

1は、「総合的な学習の時間」などの課題追究の場面で効果的に発表したり、自分の考えを書いたりする際に、適切な資料を提示したり、表現に生かしたり、考えを適切に伝わるように書いたりすることができるかどうかをみる設問である。

【設問一】話すことの内容に応じて、適切な資料を提示すること

・具体的な例を探す設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】必要な情報を収集し、表現に生かすこと

・関連するロボットを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問三】情報を基に、根拠を明らかにしながら、自分の考えが適切に相手に伝わるように書くこと

- ・根拠を明らかにして自分の考えを書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っているが、無解答率は高い状況にある。

「話すこと・聞くこと」領域における、話すことの内容に応じて、適切な資料を提示することや、「読むこと」領域における、必要な情報を収集して表現に生かすこと、「書くこと」領域と「読むこと」領域にかかわる、根拠を明らかにして自分の考えが適切に相手に伝わるように書くことについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

今後も、資料等を活用して話す・聞く活動(プレゼンテーション等)を積極的に取り入れ、根拠を明確にした説得力のある発表を行うため、適切な情報を収集し活用するための指導を工夫していくことが求められる。

また、文章と文章、文章と表(資料、長文と短文など複数の資料)を比較し、共通点や相違点を正しくとらえさせる指導の充実が必要である。さらに、一つの情報のみで判断するのではなく、複数の情報を吟味しながら、自分の考えをまとめていく学習を行うなど、様々な角度から情報を活用する力を育てていく必要がある。

自分の意見や考えに説得力をもたせるためには、中心となる主張を明確にすることと、具体的な資料を活用して主張の裏付けとなる根拠を明らかにすることの指導が必要である。自分の考えを推敲・記述する際には、これら二つの視点が述べられているかどうかを確認することが重要である。

2 文学作品を評価しながら読む

2は、文学作品を評価しながら読んで、表現の特徴をとらえたり、心情の変化に着目して朗読したり、作品の内容や構成、表現上の特色を踏まえ、自分の考えを書いたりできるかどうかをみる設問である。

【設問一】作品の内容や表現上の特徴をとらえること

- ・具体的な例を探す設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問二】作品の展開や心情の変化に着目して朗読すること

- ・関連するロボットを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問三】作品の内容や構成、表現上の特色を踏まえ、自分の考えを書くこと

- ・具体的な例を探す設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。また、他の問題と比較して無解答率が高い傾向にある。

「読むこと」領域における、「文学作品を評価しながら読むこと」については、全国の平均正答率とほぼ同程度であるが、作品の内容や表現上の特徴をとらえることや、作品の構成や表現上の特色を踏まえて自分の考えを書くことについては、全国の平均正答率と比べて、やや下回っている。文学作品を読む場合には、内容を理解するだけでなく、使われている表現や作品全体の構成等とその効果について考える学習を工夫することが大切である。

また、文学作品を味わうために、作品の展開や心情の変化に着目したり、音読や朗読したりする学習を意図的に取り入れていくとともに、朗読の仕方を工夫する学習では「どのような読み方をするのか」「なぜそのような工夫がよいのか」という点を明らかにすることが重要である。

さらに、自分の考えが相手に効果的に伝わるように書くために、根拠を示して説得力をもたせながら、筋道立てて書くことはもちろんのこと、その際、本文を引用するなどして、根拠を客観的に述べる方法等も併せて指導することが必要である。

3 複数の資料を比較しながら読む

3は、複数の資料を比較しながら読んで、表現の特徴をとらえたり、共通の情報を読み取ったり、伝えたい事柄や考えを明確にして書いたりすることができるかどうかをみる設問である。

【設問一】表現の仕方の特徴をとらえること

- ・具体的な例を探す設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】広告カードを比較して、共通して書かれている情報を読み取ること

- ・関連するロボットを選択する設問では、全国の平均正答率を上回っている。

【設問三】資料に表れているものの見方や考え方をとらえ、伝えたい事柄や考えを明確にして書くこと

- ・根拠を明らかにして自分の考えを書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。また、他の問題と比較すると無解答率が高い傾向にある。

「読むこと」領域における、「複数の資料を比較して読むこと」については、全国の平均正答率を上回っているか、やや上回っている。「表現の仕方の特徴をとらえること」や「資料に表れているものの見方や考え方をとらえ、伝えたい事柄を明確にして書くこと」については、全国の平均正答率は低い状況にある。

表現の仕方や文章の特徴に注意して読むことは、文章の内容理解を深めることに役立つものである。今後も、カードなどの非連続型テキストを含めた様々な資料を用い、情報を整理する指導を取り入れていくことが大切である。

また、情報を整理する力を身に付けさせるために、資料の比べ読みなどで情報の共通点を見付ける学習を行うとともに、本に関する基本的な情報（例えば、作者、主人公、ストーリー、ジャンルなど）について、本を紹介する言語活動を通して学習するような指導や、基本的な情報を利用しながら幅広く本を読むような指導を工夫することが大切である。

さらに、複数の資料を比較して、共通点や相違点を整理したうえで自分の考えを発表させるなど、情報を整理し、目的に応じて活用する力を身に付けさせる必要がある。実践的な言語活動を通して、言葉が社会生活の中で大きな役割を果たしていることを意識させるとともに、複数の資料を比較して、共通点や相違点を整理したうえで自分の考えを発表させるなど、情報を整理し、目的に応じて活用する力を身に付けさせる指導を充実していくことが重要である。

国語学習に関する意識結果 【中学校】

	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
国語の勉強は好きですか	23.4	34.5	28.8	13.0
国語の勉強は大切だと思いますか	55.8	32.6	8.1	3.2
国語の授業の内容はよく分かりますか	18.3	45.2	28.1	8.1
読書は好きですか	43.1	23.4	18.8	14.3
新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしていますか	24.3	30.7	30.8	14.0
相手や場面に応じた言葉づかいに気を付けていますか	52.2	34.1	10.0	3.4
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	49.7	33.9	11.4	4.7
国語の授業では、自分の思いや考えを書くことが多いですか	20.2	41.5	28.9	9.1
国語の授業では、友達と話し合ったりして意見を交換する場面が多いですか	8.2	23.1	45.1	23.2

(単位は%)

＜設問別分析＞

- 「国語の勉強は好きですか」という質問では、肯定的に回答した割合が 57.9%となっており、全国平均を 1.1 ポイント上回っている。単純な比較はできないが、平成 16 年度、17 年度に実施された「札幌市学習実現状況調査」（以下、札幌市調査）との経年変化をみると、全国平均を上回っているものの、その差が狭まってきており、今後、国語に対する学習意欲を高めるための指導の充実が一層求められる。
- 「国語の勉強は大切だと思いますか」という質問では、肯定的に回答した割合が 88.4%となっており、全国平均を 1.5 ポイント下回ってはいるものの、全国と同様に高い数値となっている。今後も、学習した内容が生活の中で活用され、生徒がその必要性に気付くような授業づくりを進めていくことが求められる。
- 「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問では、肯定的に回答した割合が 63.5%となっており、全国平均を 1.9 ポイント下回っている。平成 17 年度の札幌市調査の 2.5 ポイントの差と比較すると上回ってはいるものの、今後、指導の方法を一層工夫改善し、分かる授業づくりを進めていくことが求められる。
- 「読書は好きですか」という質問では、肯定的に回答した割合が 66.5%となっており、全国平均を 1.4 ポイント下回っている。読書は言語力の育成にも有効であり、あらゆる機会をとらえ、読書に親しむ活動を積極的に展開していくことが求められる。
- 「新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしていますか」という質問では、肯定的に回答した割合が 55.0%となっており、全国平均を 3.1 ポイント下回っている。言語事項の学習は、国語の 3 領域の学習を支えるものであり、積み重ねの学習が必要となる。また、言語力を活用する基礎の力として位置付くものであり、その充実は不可欠である。国語と他の教科、日常生活との関連を図りながら、意欲を高め、確実な定着を図っていくことが一層求められる。
- 「相手や場面に応じた言葉づかいに気を付けていますか」という質問では、肯定的に回答した割合が 86.3%となっており、全国平均を 1.8 ポイント上回っている。敬語の指導と合わせるなどして、相手や場面に応じた適切な言葉づかいを身に付け、日常生活において活用することができる実践力を養う指導に工夫して取り組んでいくことが求められる。
- 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問では、肯定的に回答した割合が 83.6%となっており、全国平均を 1.2 ポイント下回っている。生徒に、国語の学習の有用性を感じさせる学習指導の展開が求められる。
- 「国語の授業では、自分の思いや考えを書くことが多いですか」という質問では、肯定的に回答した割合が 61.7%となっており、全国平均を 2.7 ポイント下回っている。文章を書くときには、必要な材料を収集し、伝えたいことを明確にして書く習慣が必要である。書き方の指導も含めた学習展開が求められる。

- 「国語の授業では、友達と話し合ったりして意見を交換する場面が多いですか」という質問では、肯定的に回答している割合が 31.3%となっており、全国平均を 8.2 ポイントと大きく下回っている。人と自分との意見や考え方を比較し、その違いに気づき、新たな自分の考えづくりに活かしていくことは大切であり、授業においても、ねらいに応じた話し合い活動をタイミング良く設定していく工夫が求められる。